

11 恋愛ドラマでジェンダーレスな社会に！

～ドラマと社会はつながっている～

～ Romantic dramas create a genderless society ～

要旨 放送時代の異なる恋愛ドラマを分析・比較し、社会とドラマの関係性を考える。

Abstract Considering about relationship between society and dramas by analyzing and comparing romantic dramas of different ages.

1 研究背景と研究目的・意義

1.1 研究背景

私たちは、最近、ドラマの登場人物の名前を自分の子供に名づける人が増えたり、男女間での恋愛だけでなく男性同士の恋愛ドラマも放送されるようになってきたりしていることから、特に恋愛ドラマに着目し、時代による恋愛観の変化について調べた。

まず、放送年代の異なる恋愛ドラマを視聴し、恋愛観や女性の描かれ方に注目し、放送当時の社会とのつながりを調べた。すると、恋愛ドラマは1980年代前半の誕生から現在に至るまで、理想の男女像の提示、都会的なトレンドドラマの流行、恋愛と病気や経済格差などのマイナス要素との組み合わせ、社会問題を盛り込んだ内容の増加といったように変化していることがわかり、テレビドラマの変化はバブル時代、バブル崩壊、価値観の多様化などの社会の変化と並行していると知った。そして、テレビドラマはファッション、恋愛観、流行語など社会に大きな影響を与え、また当時の社会の様子は、テレビドラマに大きく反映されていると分かった。

ドラマでは、現実社会で気づきにくい、はっきりと見えないジェンダーの課題や恋愛の内容が可視化されているので、実際の社会と比べて変化が見えやすい。そのため、ドラマでの「男らしさ」と「女らしさ」や、LGBTQ の描かれ方を調べることで、社会における価値観の変化の分析ができると思った。

今回はより深くドラマの描写に注目し、時代の変化に合わせたストーリー展開の仕方の変化、また、LGBTQ のドラマでの扱い方の変化に注目して研究を進めていった。

1.2 リサーチクエスチョンと先行研究・事例

社会の変化に合わせて LGBTQ についてのドラマでの描かれ方にはどのような変化があったのか。

〈先行研究・参考文献〉

・子ども家庭庁（2023年）「結婚に関する現状と課題について」

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/f27802a2-0546-424d-ac61-ac0641d67d38/cf9b37be/20240719_councils_lifedesign-wg_f27802a2_02.pdf

2025年1月23日

・不破雷蔵（2023年）「Yahoo! JAPAN ニュース各局とも下落続く…主要テレビ局の複数年にわたる視聴率推移」

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/25a5ae4a96219047e2f06446351e4a129c0437c9>

2025年1月23日

1.3 研究の目的・意義

多くの恋愛ドラマで男女の恋愛が描かれるが、これからは男女という枠にとらわれないドラマも増えていくと予想できる。この研究を見た人に、ドラマを通じてLGBTQの存在や社会的マイノリティを知り、ジェンダーに対する偏見を改め、理解を深めてもらいたいと考えた。

1.4 仮説とその根拠

仮説：ドラマを通してジェンダーに対する考え方が変わってきている。

時代によって恋愛の展開や理想の男性像、女性像が変わってきていることからジェンダーにかかわる恋愛の仕方も変化してきているのではないかと考えられる。また、近年のドラマは多様なジェンダー表現が増えていて、それにより視聴者のジェンダーに関する考え方はより柔軟で多様性を受け入れる方向に変化している。

2 研究方法1 実際に放送されたドラマの分析

2.1 研究の目的とリサーチクエスチョン・仮説との関係

ドラマ作品におけるジェンダー描写の変化は視聴者のジェンダー観を変えられるのか。

ジェンダー観念とは社会や文化の中で男性や女性その他の性別に対して持っているイメージや期待のこと。

2.2 研究と分析方法

恋愛ドラマのストーリー展開は時代によって変わっていると考え、放送年代の異なる二つの恋愛ドラマを視聴し、登場人物の恋愛模様において、①出会い方、②自分の気持ちへの気づき、③アプローチの仕方、④周りの反応、⑤恋愛の障害となったものや葛藤、⑥結末に注目してまとめた。

今回研究材料として使った作品は、「あすなろ白書」（1993年放送、フジテレビ）と「きのう何食べた？」（2019年放送、テレビ東京）の二つ。

これらの作品を選んだ理由としては、全話をコンテンツで視聴できること、社会に視聴率やランキングにおいて影響を与えたドラマであること、私たちに新しい視点を与えてくれる、という観点から選出した。「あすなろ白書」は放送当時から大ヒットし、社会現象を巻き起こしたドラマとして人気を博している。1993年の流行語大賞に「俺じゃダメか?」「あすなろ抱き」といったドラマ関連の言葉がノミネートされ、最高視聴率31.9%を記録し、月曜日夜9時に放送されるドラマの視聴率第5位に入る名作だ。「きのう何食べた?」は個人・世帯ともに視聴率4~8%台を記録し、深夜ドラマとしては異例の数字となった。また、同性カップルの日常を描いた料理ドラマという新しい視点で、大きな話題を呼んだ作品だ。

2.3 結果

それぞれのドラマを見て、分析しその特徴をまとめた。

「あすなろ白書」

〈主な登場人物とあらすじ〉

主人公の園田なるみと、掛居保、取手治、松岡純一郎、東山星香は、大学で「あすなろ会」というグループを結成。友情の象徴となる時間を共有する。

① 出会い方

園田なるみは大学入試試験中にシャーペンの芯が折れ、書けずに困っていた。そこで、大学に通う学生の掛居保がシャーペンを貸す。

② 自分の気持ちへの気づき

なるみにとって掛居は大学入学当初から気になる存在であり、なるみは真面目で誠実な掛居に惹かれていき、恋に発展していった。

③ アプローチの仕方

なるみは言葉で積極的に好意を示すタイプではなく、一緒に過ごす時間や自然体のふるまいを通して、掛居に気持ちを伝えていく。

④ 周りの反応

なるみと掛居の恋を応援したり、見守ったりする協力的な場面もあるが、ライバルという立場から嫉妬したり、二人の恋を妨害したりする場面もある。

⑤ 恋愛の障害となったものや葛藤

二人の間に生まれた障害や葛藤としては、なるみの感情に率直な性格と掛居の真面目で理性的な性格の違いが、恋が進むほどにズレとして表面化していくこと、また、なるみからの掛居への愛の重さが負担となり、二人の間に距離が生まれていくこと、さらに掛居が「今は恋より未来が大事」と自分の将来の夢を優先してなるみと距離をとってしまうことなどがあげられる。

周りからの障害としては、なるみに想いを寄せる取手治からのアプローチでなるみの感情が揺らぎ、なるみと掛居の関係が不安定になってしまったことがあげられる。

⑥ 結末

社会人になり、それぞれ別の道歩んでいた二人は再会を果たす。かつては価値観の違いや性格のすれ違いからお互いを受け入れられずに別れた二人だったが、再会して「お互いを受け入れ、成長した姿でやりなおそう」という掛居の真剣なプロポーズになるみが応じ、二人は結婚する。

「きのう何食べた？」

〈主な登場人物とあらすじ〉

弁護士の笈史朗と美容師の矢吹賢二の二人がともに暮らし、物語が食生活をメインに展開している。

① 出合い方

史朗は元恋人の男と共にゲイバーを訪れ、その元恋人の友人である賢二に出会う。賢二は史朗にとって恋愛対象外だったが、賢二は史朗のファッションを褒めるなど、史朗に対して好意的な印象を持つ。

② 自分の気持ちへの気づき

賢二はもともと史朗に好印象をもっていた。史朗は、日常の料理や会話、賢二の思いやりに触れるたびに少しずつ「一緒にいるのが当たり前になっている」「賢二を喜ばせたい」と思っている自分がある」という気持ちが大きくなっていく。

③ アプローチの仕方

史朗は料理で愛を表現し、行動や気遣いで気持ちを伝える。賢二は感情を言葉で素直に表現し、相手に全力で寄り添う。

④ 周りの反応

史朗は不安を抱いていたが、周囲は優しく受け入れてくれる人が多かった。賢二の同僚も、特に問題視せず自然に接している。

史朗の両親は、最初は驚きと戸惑いを隠せなかったが、時間をかけて少しずつ理解しようとする姿が描かれる。賢二はすでに両親にカミングアウトしていて、大きな描写はなかった。

⑤ 恋愛の障害となったものや葛藤

史朗は、親や同僚にカミングアウトしようと決意するまでに何年もかかり、賢二と一緒にいるのを隠してしまう。その行動が賢二にとって不快なものとなり、すれ違う原因となってしまふ。また、賢二の「好きと言ってほしい」という素直なタイプと、史朗の「言葉より行動」という恋愛観のズレが喧嘩につながった。史朗自身の葛藤としては、はじめは両親に自分がゲイであることを受け止めてもらえず、父親は「普通に結婚して子供を持ってほしかった」といい、母親は「自分のせいかも」と悩み、そんな姿を見て史朗は「親を悲しませたくない」という思いと「自分らしく生きたい」という思いの板挟みになる。また将来への不安として、「この先二人でどうやって生きていくのか」や老後、法的保障の欠如があげられる。

⑥ 結末

クリスマスイブに二人で食卓を囲み、手作りの料理を二人で分け合う。最終的には、「二人でいられるだけで幸せだ」という結論に至り、日常の中にある「当たり前の幸せ」を二人で大切に生きていくという締めくくり。

2.4 考察

「あすなろ白書」の放送当時はバブル時代(1986~1991)が崩壊した直後で、不況による不安定な社会が若者の心の揺れや恋愛を求める姿としてドラマに反映されているといえる。トレンドードラマの流れにありながら、嫉妬や葛藤、選択など、リアルな人間像が描かれていて、時代が変化している最中だと分かる。また「きのう何食べた？」は現代の少子高齢化、価値観の多様化によって恋愛に安定を求め、共感し、支えあう様子が反映されている。こうした社会と結びついた変化があるということは、社会の変化とドラマの変化は密接に関係しあっているといえる根拠となるだろう。

3 研究方法2 LGBTQに関する描かれ方の変遷を分析する

3.1 分析

研究を進めていく段階で、「あすなろ白書」にも同性愛の要素があること、俳優の西島秀俊さんが両作品でゲイを演じていることに気づき、「あすなろ白書」でのLGBTQの描かれ方にも注目して研究を進めた。

3.2 考察

あすなろ白書では掛居に想いを寄せる男性、松岡の姿も描かれていて、その中には、松岡の孤独感や自分らしく生きることへの葛藤の象徴として描かれている。また、本当の自分を見せたら拒絶されるのではないかと感情を内にため込み続けて、やがて恋愛の破綻や精神的な限界につながってしまう。そして最終的に松岡は不慮の事故で死んでしまう。

このような「あすなる白書」でのゲイの描かれ方と、「きのう何食べた？」でのゲイの描かれ方を比較すると、「きのう何食べた？」で描かれている生活のほうが、主人公が生きやすい社会になっているように感じる。これは、実際に私たちが過ごしているこの社会が、多様な人々の恋愛を受け入れつつあるという社会の変化を表していると考えた。

1993 年は性的マイノリティの人が恋愛において悩んでいることは、誰にも相談ができず孤独に感じる、周りの人にカミングアウトができず嘘をつき続けなければいけないこと、親から理解されないこと、同性同士の結婚が認められていないことがあげられる。「あすなる白書」では同性愛の表現が濁されていたのに対し、「きのう何食べた？」では、ドラマの主題として描かれているところに、時代の流れと社会の LGBTQ に対する認識が高まってきていることが分かる。

周りの反応についての考察としては、周囲の人にカミングアウトをするという場面がどちらのドラマにも取り上げられていたので、周りの反応が昔よりも現在のほうが、受け入れている印象はあるものの、カミングアウトという壁は昔も今も存在していることがわかる。

4 結論と今後の展望

4.1 結論

恋愛ドラマにより間接的にだが少数マイノリティの人の考え方や悩みについての知識をつけることができた。ドラマで描かれた想像もしない恋愛の展開の仕方から今までの固定観念が少し変わり、それに伴ってジェンダー観念のとらえ方も変わった。

4.2 今後の展望

ドラマの視聴によって新しいテーマのドラマが広く見られることによって、従来の「男だから」「女だから」といった偏見の判断が減り、「その人らしさ」という個人を尊重する考え方が広まっていくのではないかと推察できる。

またドラマだけにとどまらず、LGBTQ に関する話題を映画や広告で表現することで考えられる性のイメージが多様化し、大人だけでなく子供のころから柔軟なジェンダー観を身につけることができるかもしれない。

現在日本では同性婚が認められていないが、恋愛ドラマから人々の固定観念を変化させることで、法を変えていくことにつながられるのではないか。恋愛以外の面からみると性別に基づく差別を減らすこととして教育、雇用、医療などがあげられるが、男女賃金格差是正、男性も女性も育児をしながら勤務できる体制を整えるなどが考えられた。これらのことから、ドラマ視聴は、ジェンダー観の転換から個人の尊重、制度の整備などに影響を与え、誰もが生きやすい社会、よりよい社会に変化していくきっかけとなる可能性があるといえる。私たちは、人々のジェンダー観を変えていくためには多くの人に新しいテーマの恋愛ドラマを視聴してもらうことが第一歩だと考えた。そこで、今回の探究発表などのイベントや学

校内の小さなコミュニティーのなかで、このようなドラマの情報をとりあげることで、ジェンダー観を変えていきたい。また地域の市役所や企業へジェンダー理解のためのドラマ視聴をすすめるため、ドラマを宣伝するチラシを貼るなどの取り組みから社会全体のドラマへの関心を高めていきたい。

5 引用文献・参考文献

・藤田 真文（2024）『テレビドラマ研究の教科書』青弓社

・子ども家庭庁（2023年）「結婚に関する現状と課題について」

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/f27802a2-0546-424d-ac61-ac0641d67d38/cf9b37be/20240719_councils_lifedesign-wg_f27802a2_02.pdf

・不破雷蔵（2023年）「Yahoo! JAPAN ニュース各局とも下落続く…主要テレビ局の複数年にわたる視聴率推移」

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/25a5ae4a96219047e2f06446351e4a129c0437c9>